

# 令和8年度第1回岐阜県DX推進本部員会議

## 議事要旨

### 1 日時

令和8年6月10日（水）10：00～10：30

### 2 場所

県庁6階特別会議室

### 3 出席者

配席のとおり

### 4 議事概要

#### <議題>

#### 次期岐阜県DX推進計画(仮称)の策定について

##### 【総合企画部長】

「30年後の理想の社会」を見据える」とあったが、特にAIなど技術の進展が読めない中で、どのように描いていくのか。

なお、総合企画部が策定を進めている「新たな総合戦略（仮称）」では、「今後の岐阜県の理想像」と、「今後10年の課題」という整理をしている。

##### 【未来創成局長】

人口動態などの30年後が見える要素と、技術の進展などの見えない要素を切り分けて前提条件とし、上位計画である総合計画で目指す岐阜県の姿も踏まえながら、デジタル技術の活用について柔軟に対応できるように設定していく。

##### 【総合企画部長】

首長との面談をしていると、小規模自治体ではDXやAIが進んでいないため、県主導の支援や共同調達などのニーズが大きい。計画に反映し、実効性のある計画を立てていただきたい。

##### 【未来創成局長】

市町村の声も丁寧に聴いて策定していく。

##### 【危機管理部長】

各分野のDX見直しの具体的な方向性について、現在の考え方はどうか。

【未来創成局副局長（デジタル担当）】

防災など大きな分野は独立させつつ、生活や労働環境など分野横断的に整理できるものは整理していくことを考えている。

【危機管理部長】

AI 活用は重要であり、例えば国は国会答弁作成に AI を使っているが、知事や部長の思いがこもらないことを懸念している。AI に依存し過ぎないようにしたい。

【未来創成局長】

県では現在、答弁は従来通り職員が作成したうえで、そのチェックに AI を活用することを考えている。ご指摘のとおり、思いをこめるべき部分については、職員が担う必要がある。AI に依存せずしっかり考えることができる人材の育成について、知事公室と連携して取り組んでいく。

【商工労働部長】

デジタル化未着手やデジタル化の成果が出ていない中小企業に対し、ソフトピアジャパンやテクノプラザで支援し、AI 活用の成果が出てきている。DX の効果をわかりやすく伝え、経営者層の意識改革と継続的な取組を促し、働いてもらい方改革の推進に取り組んでいきたい。産業分野では、このような方向性でよい。

【未来創成局長】

ご認識のとおり進めていきたいと考えている。

【足立副知事】

小規模自治体は日々の業務で忙殺されているという話を町村長から頂いている。市町村ごとの実情に合わせた丁寧な支援を行っていただきたい。

また各分野の DX について、個別企業の DX 化にとどまらず、サプライチェーンなどでの横断的な DX など、30 年後の業界全体のあり方というところまで考えていくのか。

【未来創成局長】

小規模自治体の支援については、町村レベルでの DX は対応や人材確保が難しいということで国でも役割分担の見直しが検討されているなか、県の役割も増えていくという問題意識で取り組んでいく。

また、計画の策定にあたっては企業の意見も聞きつつ、業界全体のあり方なども含めて考えていく。

【健康福祉部次長】

30 年後の理想の社会を考えるということについて、SDGs に近いと考えるが、成果指標の設定は SDGs のようにバックキャストで設定していくのか。

### 【未来創成局長】

30年後を見据えた上の短期的な5年計画ということで、ビジョンを持つのは大切である一方、KPIの設定までをバックキャストで行うのは難しい。確度が高い進捗管理をするために、フォアキャストが多くなる。

### <総括コメント>

#### 【江崎知事】

DXは目的ではなく手段であり、議論すべきは「DXによって何ができるようになったか」である。

30年後というビジョンは、我々の次の世代を意味している。技術の進歩からどんな社会ができるのかを考えるのではなく、次の世代が活躍する社会がどうあってほしいかを考えるべきである。

日本は人間系がしっかりしており、デジタルに頼らずとも便利な生活ができる中でDXの話をしているため、ずれた議論になる。「今できていること」をデジタルでやるかどうかというのではなくて、たとえば、海外出張で事前に用意した資料だけが頼りだったものが、海外からオフィスにアクセスして同じ環境で準備ができるようになったように、「今できないこと」ができるようになる感動を県民に感じてもらう必要がある。

「新たな総合戦略（仮称）」の策定においても同様に指示しているが、今あるリソースで何ができるかを考えるのではなくて、将来どんな岐阜県にしたいか、どんな世界にしたいかを考えること。そのために今あるリソースを把握し、不足分をどう調達するか、そして今困っている、何を解決したいのかということを基本とすること。DXが進展することが必要なのではなく、困っていることは何かということをもう一度洗い直し、それを実現するためにデジタル技術を活用する、ということを考えること。